

第5学年特別活動（学級活動）学習指導案

指導者 馬場直幸

I 題材名 まとまり集会をしよう

II 題材について

- 6月の学級活動の議題を決めるために班長会を行った。子どもたちからは、「挨拶をもっと向上させる取り組みをしたい。」「学級みんなの仲をもっとよくする集会を開きたい。」「係活動をもっと工夫したい。」という内容の議題が出された。議題について班長会でさらに話し合ったところ、「クラス替えがあってから、まだ学級の集会を開いていない。」「自分勝手な人がいる。」「女子がグループを作っている。」という実態が出された。そして、学級で集会を開き、一緒に活動したり、互いのよさを認め合うことによって友達のことをもっと理解し、学級のまとまりを深めたりすることができるのではないかという意見が出された。また、学級のまとまりを深めることは、学級目標である「挑み 紡ぐ 馬場学級」を達成することにつながるのではないかという意見も出された。子どもたちの願いと学級目標とのかかわりから「まとまり集会をしよう」が6月の議題として出された。

- 本題材は特別活動の活動内容（1）「学級や学校の生活づくり」における子どもたちの自発的・自治的活動をより一層高めるために設定した。教師の助言を受けながら子どもたちが活動計画を作成し、役割を分担して話し合い活動を自主的に進める。このことにより友達の意見や行動のよさを認め合い、みんなが納得するような会をつくり上げるにはどうしたらよいかを考え、実践することにより、よりよい人間関係を築こうとする実践的な態度を養うことを主なねらいとしている。

子どもたちは、明るい表情で、何事にも積極的に取り組むことができる。4月にはクラス替えを経験し、新しい級友や先生との出会いに期待を膨らませながら高学年としての生活をスタートさせた。しかし、環境の変化にうまく対応することができず、自分をのびのびと表現できない子どももいる。また、誰とでも仲良くすることの大切さは理解しているが、固定された友達とばかり行動する子どもや、友達の行動を認めることができない子どももいる。このような状況の中で、友達と仲良くし、学級のまとまりを深めるためにはどうすればよいかを話し合い、実践の場で共に活動することは、とても価値のあることである。そうすることを通して、子どもたちに望ましい行動の仕方や、支え合って行動することの大切さをとらえさせたいと考えた。

学級の取り組みとしては、子どもたちが協力して活動したり、学級集団の仲を深めたりするような「まとまり集会」を開くことによって、学級全員の結びつきを強め、学級の団結力を高めることができると考える。子どもたちがお互いのことを理解し合い、友達を受容し、信頼することができる学級は、支持的風土をもつ温かい学級に発展する。このような学級では、子どもたちは自己の可能性を十分に発揮しようと活動意欲が向上すると同時に、集団に対する所属感をもち、友達に積極的に働きかけるようになると考えられる。子どもたちがお互いのことを認め、支え合えるような活動内容を考え、実践することにより、集団のまとまりをさらに高めることができると考える。

さらに学級のみならず、学校生活を楽しく豊かなものにすることを目指し、自発的、自治的活動を行うことによって、実践する意欲や態度、効率的な話し合いの進め方を育てることができる題材であると考えられる。以上のことから本題材を設定した。

- 指導にあたっては、話し合い活動に至るまでに学級が抱える問題の把握や課題解決に向けての意欲を高めたい。そこで、議題が誰の、どんな願いによるものなのかをとらえさせたり、実行委員会を組織して、みんなで話し合うことを決めたり、決まったことを朝や帰りの会で連絡したりしていく。

本時の話し合い活動では、子どもたちからの提案理由の説明の際に、学級の実態と提案した願いについて説明を行う。また、提案理由の説明の後に、教師から子どもたちの実態について具体的な資料を提示しながら補足説明を行い、話し合いに対する切実感を高めていきたい。話し合いは、子どもたち自身の手で進め、決定することができるように子どもたちの活動を支援していく。また、生活上の問題を話し合うことができるような助言を行い、問題の解決を図っていく。「先生から」では、話し合いのよさをとらえさせ、実践への意欲をより一層高めることができるようにするために、個人のよさと集団としてよりよい決定を行うことができたよさについて伝えていく。話し合いの振り返りの場面では、自己の高まりや友達のよさ、話し合いにおける成果をとらえさせることができるように視点を与えて振り返りを行う。

実践の場面では、子どもたちが自主的に進めることができるように支援する。また、活動の準備期間や活動後には、お互いのよさをとらえることができるように認め合う場面を設定し、朝や帰りの会でよさを振り返ることができるようにする。

III 評価について（◇は本時にかかわる評価）

指導項目	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
計画・進行	計画委員として教師の助言を受け、自分の役割に責任を感じながら自主的に計画立案や話し合いの進行をしようとする事ができる。 【事前の活動、話し合い：観察】	提案理由や議題をよく理解して活動計画を立てたり、話し合いのめあてや時間など、話し合いで気をつけることについて考えたり判断したりすることができる。 【話し合い：観察】	話し合いの進め方について理解し、提案理由や時間などを考えながら話し合いを進めることができる。 【事前の活動、話し合い：観察】
話し合い活動	まとまり集会の内容について自分の考えをもって話し合いに参加することができる。 【事前の活動、話し合い：発言、観察】	集団にとってよりよい集会の内容は何か考え、提案理由に沿って自分の意見を考えたり、発表したりすることができる。 【事前の活動、話し合い：発言、観察】 ◇本時の評価	話し合いの柱に沿った意見を言うことや集団決定の仕方など、話し合いの基本的な約束を確かめながら話し合いを進めることができる。 【話し合い：観察】
実践	決まったことを自主的に実践しようとする事ができる。 【実践：観察】	まとまり集会のねらいに沿った取り組みを考え、自分の役割を自覚し、支え合いながら活動することができる。 【実践：観察】	学級のまとまりを深めようという意識をもって準備の進め方を理解することができる。 【実践：観察】

IV 本題材にかかわる活動の経過

月・日	時間	参加児童	主な活動内容	指導上の留意点
5/24	放課後	生活担当 班長	○ 6月の学級活動の計画 ・ 議題ポストを開け、議題を整理し、議題を選ぶ。	◆ 学級が楽しく豊かなものになることであるか、学級生活が向上することであるかという観点で議題を選定させる。
5/31	帰りの会	全員	○ 議題の決定 ・ 「まとまり集会をしよう」 ○ 実行委員の選出	◆ 学級のまとまりを深めるために「まとまり集会」を行いたいという理由を補足する。
6/1~	放課後	実行委員	○ 集会の準備	◆ 実行委員が中心となって行うことと、みんなで決めることを分けながら準備を行う。
6/6	給食時間	実行委員	○ 話し合いの柱の原案の決定 ・ 学級のまとまりを深めるためには、どんな内容の会を行えばよいか。	◆ 全員で話し合う必要のあるものに気づくことができるようにする。
6/8	朝の会	全員	○ 話し合いの柱の決定 ○ 役割分担の決定	
6/9	給食時間	提案者	○ 提案理由に必要なことについて話し合い、準備を始める。	◆ 本題材の提案理由が友達によく伝わるように支援を行う。
6/14	朝学習	全員	○ 話し合う内容について確認する。	◆ 学級会カードに自分の考えを記入させる。
6/16	放課後	進行係	○ 係の打ち合わせをする。	◆ 実際の話し合いの場面を想定しながら進められるように具体的な支援を行う。
6/17	学級活動 本時	全員	○ 学級のまとまりを深めるためにはどんな内容の会を行えばよいかについて話し合う。	◆ 教師の助言を受けながら、自分たちで決定できるようにする。
6/20~	放課後	全員	○ 取り組みの準備を行う。	
6/24	学級活動	全員	○ 「まとまり集会」を行う。	◆ 決まったことや準備してきたことを自分たちの力でできるように支援する。
	帰りの会	全員	○ 「まとまり集会」の振り返りを書く。	◆ 今回の取り組みを通してがんばったことや友達のがんばりについて記述させる。

V 題材と子ども

子どもたちは、これまで、林間学校のキャンプファイヤーで行うクラス発表の内容について話し合い、それに基づいた活動を実践してきている。馬場学級のよさが表れるような発表にするために友達と協力して準備をしたり、実際の発表を通してお互いに交流を深めたりする姿が見られた。また、生活向上の取り組みとして、挨拶についての取り組みを行ってきており、自主的、実践的な態度が育ちつつある。しかし、実際の活動の時には、自分の考えのみを主張する子どもやそれをただ従うだけの子どもも見られた。また、自分の意見が反映されなかったため、意欲がもてないまま活動を行っている子どももいた。そこで本題材を通して、どんな考えをもち、どのような行動をとることが今まで以上に友達と仲を深め、学級のまとまりを強めることができるのかを意識できるようにしていきたい。

本時は、学級の仲をもっと深めるために「まとまり集会」の内容について考えることを柱として活動を行う。

(1) 自分の考えを明確にし、話し合いにおける変容の分かる学級会カードの活用

事前の活動では、まとまり集会実行委員会を組織し、集会に向けて、次第や具体的な内容について話し合いを行う。また、決まったことを知らせたり、話し合いが必要になったりした場合には、朝や帰りの会に時間を設けて行う。本時の話し合い活動にかかわって、自分の考えをしっかりともった上で話し合いに参加できるようにするとともに、一人一人の思いや願いを把握するために、話し合いの柱についての自分の考えを事前に学級会カードに書かせる。

(2) 意欲的に話し合いに参加するための資料の工夫

話し合い活動では、話し合いに切実感をもって臨ませるために、誰のどんな願いによる提案なのか、今の学級の実態、目指す学級の姿について、提案理由の説明を行う。その後、担任から馬場学級の一人一人の仲についてのアンケート結果と「馬場学級がもっと仲良く、まとまりのある集団になってほしい。」という内容の子どもの作文を紹介し、感想を交流する。自分たちの実態をとらえることと、友だちの願いをとらえることによって切実感をもつことができるようにしていきたい。

(3) よりよい集団決定を生み出すための場面の設定

話し合いの場面では、目的に沿った集会にするためにはどんな内容を行えばよいのかを考えさせ、子ども同士で考えを深めていけるようにしたい。また、子どもたちの話し合いの様子を見ながら、解決の見通しが立たないような場合には、事前に学級会カードに書かれた子どもたちの思いや願いをもとにした生活の問題を明確にする助言を行い、それらを解決しながら話し合いが進められるようにする。集団決定の場面では、提案理由を振り返らせ、学級のみならずにとってよりよい集会になるような結論が出るようにする。先生からでは、実践への意欲と次回話し合いに対する意欲を高めるために、考え方のよさや参加の態度等を評価したい。そして、本時の話し合いの振り返りをカードに書かせ、自己評価を行い、次の時間への取り組み方や考え方を確かなものにしたい。

VI 本時の指導

1 ねらい

- 学級の中をさらに深めるために「まとまり集会」の内容について話し合い、決定することができる。
- 「まとまり集会」への意欲を高めることができる。

2 指導の構想

「実践への高い意欲をもつ子どもを育てる授業」を目指して次の視点から指導を構想する。

(1) 自分の考えを明確にし、話し合いにおける変容の様子の分かる学級会カードの活用

- ① 子どもたち一人一人が議題について自分なりの考えをもって話し合いに参加できるようにする。
- ② 話し合いにおいて自分の思いや願いが活かされたことや高まったことについて振り返りを行い、そのよさに気付かせることができるようにする。

(2) 意欲的に話し合いに参加するための資料の工夫

- ① 導入の段階で話し合いの内容に即した具体的な資料を提示することにより、意欲的に話し合いに参加できるようにする。

(3) よりよい集団決定を生み出すための場面の設定

- ① 集団決定の方法について意見を出し合う場面を設けることによって、話し合いに参加する全員が納得のいく結論を導き出すことができるようにする。
- ② 集団決定を行う際には、提案理由や活動のねらいについて振り返ることによって、個人だけではなく集団にとってよりよい結論を導き出すことができるようにする。

3 展開

活動の流れ	子どもの活動	指導上の留意点 (研究に関わる視点: ◎ 評価: ◇)
1 始めの言葉 (1分)	○ 司会の合図で話し合いを始める。	<ul style="list-style-type: none"> 話し合うことが明確にとらえられるように話し合いの柱を黒板に書いておく。 ◎ 座席表を用いて事前に一人一人の考えを把握しておく。
2 係の紹介(1分)	○ 司会が係の紹介を行う。	
3 議題の確認 (1分)	○ 議題と話し合いのめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いのめあてを、「自分の考えを積極的に発表しよう。」とし、話し合いに向けての意欲を高めたい。
「まとまり集会」の内容を考えよう。		
4 提案理由の説明 (8分)	○ 提案者が「今まで以上にまとまりのある学級にするために集会をしたい。」という内容のことを話す。	<ul style="list-style-type: none"> 提案理由の説明の中で話し合いが行われる経緯について説明をさせる。 ◎ 教師からの補足説明の中で、学級が抱える問題や目指す学級の姿を子どもたちから発表させる。また、馬場学級の仲のよさについてのアンケート結果やこんな学級になってほしいという子どもの作文を紹介し、話し合いに向けての切実感を高める。
5 話し合い (25分)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えとそのわけを出し合っていくと思われる。 ○ 互いの考えの根拠を聞き合いながら、集団決定していくと思われる。 <p>【話し合いの柱】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「まとまり集会」の内容について <ul style="list-style-type: none"> ・ ドッジボール ・ 長縄跳び ・ 制作活動 等 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで声をかけ合ってやると楽しくできる。 ・ みんなで心をつなげて取り組むことができる。 ・ 上手下手がなく、みんなで平等に楽しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践活動を見通して話し合いを進めている際には、自分たちの力で進めることができるようにしたい。 ・ 理由も発表させ、板書に位置付ける。 ・ 賛成意見を発表させていく中でそれぞれの意見のよさを明らかにし、より学級のまとまりを深めるのはどれか考えられるようにしたい。 ・ 話し合いの中心がずれた場合には、教師が黒板に出された理由を整理しながら論点を焦点化する。 ・ 考えが変わった子どもには、そのわけを話すように促し、考えの深まりを認める。 ◎ 集団決定の際には、その方法を話し合ったり、提案理由を振り返ったりしてよりよい結論が出せるように助言を行う。 ◇ 学級のまとまりが深まるようなよりよい内容とそのルールについて考えることができる。 <p style="text-align: right;">【評価】</p>
6 決まったことの確認(1分)	○ ノート書記が発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 決まったことを短く発表させる。
7 今日の話合いの振り返り (5分)	○ 学級会カードに振り返りを記入し、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 話し合いや活動に対しての意識の持続化を図るために、次の観点で話し合いカードに話し合いの振り返りを書かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 取り組みに向けてがんばりたいこと ○ 話し合いについて思ったことや考えたこと ○ 友達のよいところ
8 先生から (2分)	○ 教師の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 助言の中で、考え方のよさや参加の態度などを賞賛し、話し合ったことの満足感や実践への期待感を高める。
9 終わりの言葉 (1分)	○ 司会が話す。	